



安心とつるおのの下町「川の手」をめぐりて

# 防災 まちづくり 瓦版

発行ノ寺言問を防災のまちにする会

平成8年4月1日

**高層製衣薬跡地に  
防災まちづくり広場、完成**

4/20に  
完成祝賀会を  
開催します



△ 防災まちづくり広場  
中央部分は通り抜け道路になっています。



「おーい、みんな無事か」

その声に、私と母があわてて玄関まで出てみると、おじさんが大きなリュックを背負い、両手にいっぱい荷物を持って立っている。このおじさんは、東京に住んでいる。

「大丈夫、家の中はめちゃくちゃだけど、家族四人みんな無事です。」

「そりゃよかった。神戸に地震が起きたってテレビのニュースで聞いてね。すぐに電話をかけたのだけれど、まったく通じなくてね。おじさんや健二もとっても心配して、私に様子を見てこいと言っただよ。」

「おじさん、どうも心配してへれてありがとうにございます。昨日とおとといの三日間は、小学校に避難していたのだけれど、寒くて寒くて仕方がないので、さっき家にかえってきたところなんです。こんな地震が神戸に起こるなんて思ってもいなかったので、ごへ避難したりおいのかわからなくて困りました。」

「ええっ、避難することさも知らないのかい。東京では自分が避難することさ小学生でも知ってるよ。」

「そういえば、私が小学校のころ、そんな話を聞いたような記憶があるよ。はっきりと覚えていないけど、机の下に隠れなさい。といわれたのを見ていたから、それが地震があった時のことだったのかしら。」と母が昔の記憶をたどりながら話している。おじさんは、

「東京では、一か月に一回くらい、自治会から避難板が回ってきてね。避難場所はここだから、地震が起きた時には、すぐに飛び出さず、揺れがとまりのをまちなさい、とが注意することを書いてあるんだよ。」

「健二君の中学校でも、そんなことやってるのですか。」

「そうだよ。訓練の日があるからだよ。」  
「火事の避難訓練はしたことがあつたけれど、地震

